

令和2年度より使用する  
文京区立小学校教科用図書について

令和2年度使用文京区立小学校教科用図書審議会

答 申

令和元年7月19日

## 国語

国語科の目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することである。

**東京書籍**は、単元の始めに何を学ぶのか、どんな力を身に付けるのかが分かりやすく書かれている。さらに、主発問や学習の進め方が具体的に書かれているので、児童が見通しをもって学習に取り組める構成になっている。長音、拗音、促音、半濁音を手拍子等で体得したり、実際の新聞記事を2種類掲載して特徴を捉えやすくしたりするなど、具体的な資料提示が効果的である。

**学校図書**は、単元の始めに学習の流れが分かりやすく表記されており、見通しをもって学習に取り組める。内容では、AIやインターネットなど時代に即した教材を収録していたり書くことの単元が充実していたりすることが特徴である。百科事典の使い方や学校図書館・地域図書館の利用の仕方は日常生活に結び付く内容である。

**教育出版**は、自分の思いや考えを表現したり、対話をしたりする内容が充実している。写真や絵が多く、児童が言葉をイメージしやすいので理解につながる。単元の関連や教科横断的な学習が意識された内容がある。巻末の付録には説明の仕方やノートを取り方がまとめられており、活用しやすい。手紙の書き方、観察の仕方、おもちゃ作り等、他教科との関連が図られている。

**光村図書**は、児童が登場人物に自分を重ねたり心情を豊かに想像したりできる物語文が掲載されている。また、時代に即した説明文、自分の生き方や将来につながる教材など様々なジャンルの教材が充実している。学習の進め方には、関連する既習事項が記載されており系統的に学習を進められる。さらに、単元ごとに「主体的・対話的で深い学び」につながる手立てが示されている。

## 書 写

書写に関する事項においては、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことができる書写の能力を育成することが求められている。このため、文字を書く基礎となる「姿勢」「筆記具の持ち方」「点画や一文字の書き方」「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へと系統的に指導することが重要である。

**東京書籍**は、書写の学びを他教科や日常生活の中で生かすことが意識できる内容になっている。ページの左側に学習する内容が一覧となっており、その単元と関連の深い内容が見つけやすくなっている。

**学校図書**は、「①確かめて書こう②考えて書こう③生かして書こう④振り返り」といった学習の進め方が示されている。様々なコラムを掲載し、児童が文字や学習に興味・関心をもって学習に取り組めるようになっている。

**教育出版**は、運筆のリズムが体感できる示し方や、穂先の通り道の色分けなど示し方が工夫されている。解説が多いので理解の手助けになる。振り返りのページで、学んだことを確認できる構成になっている。

**光村図書**は、「①考えよう②たしかめよう③生かそう」という学習の流れが分かりやすい。学習したことが役に立つことを実感できるページや、発達段階に応じた書き方やポイントは児童の学習意欲を高める。

**日本文教出版**は、書き方の説明が丁寧で理解に繋がる。言語活動を扱ったコーナーを掲載し、書写で身に付けた力を様々な場面で活用できる工夫がされている。書写の側面から語彙を扱うコーナーが設定されている。

## 社 会

社会科の目標は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを旨とする。

**東京書籍**は、働かせたい社会的な見方・考え方である「時間的」「空間的」「相互関係」を、「位置や広がりに着目」、「時間に着目」、「かかわりに着目」、「比べる、分類する、総合する、関連付ける」に分けて、活用のポイントが例示されている。「まとめる」の段階で多様な表現活動が紹介されており、学習内容や児童の実態に合わせて、まとめの活動が選択できるようにしている。学習過程で活用が図れる QR コードによる Web コンテンツが充実している。

**教育出版**は、学習の進め方を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の順で掲載されているとともに、毎時間ごとに「問い」があることで、見通しをもって問題解決的な学習を進められる。比較資料が見開きやグラフなどで掲載されているため比べて考えられる。全ての文字が太く読みやすい字体で書かれている。キーワードと言葉は更に太字で強調して示されており、ユニバーサルデザインに配慮されている。

**日本文教出版**は、社会的な見方・考え方を働かせる手立てとなる、「見方・考え方コーナー」が設けられており、「空間」「時間」「関係」のどこに着目して考えると良いか示されている。「選択・判断」が求められる単元では、学習問題について考えを交流した後、「さらに考えたい問題」を設定し思考を深められるようにしている。本文が、「学習活動」「友達の発言」「学習内容」の3つに分けられた構成になっており、どの内容について学習しているのか分かる。

## 地 図

地図帳については、日常の指導の中で、折にふれて、地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料などの活用の仕方について指導し、地図帳を自由に活用できる知識や能力を身に付けるようにすること、各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、次第に我が国の都道府県の構成について分かるようにすることが大切である。

**東京書籍**は、初めて地図を活用して学習する3年生にも地図の仕組みや約束事が分かるように、鳥瞰図を用いている。また、鳥瞰図、真上からの地図というように、段階を追って視点の変換を行う工夫が見られる。また、「首都東京」のページを設け、文京区を含めた観光名所が大きく掲載されていて児童にとって馴染みやすい。日本の自然災害など、児童が主体的に、見方・考え方を活用しやすい内容になっている。

**帝国書院**は、初めて地図を活用して学習する児童のための「地図って何だろう」のページでは、真横から、斜め上から、真上からの写真を段階的に示している。また、「広く見わたす地図」等では、各地の名産品や観光地などのイラストを豊富に扱っている。「地図マスターへの道」として、社会的な見方・考え方や地図活用の技能を養うことを意識した問いを設定している。距離の求め方など、教科等横断的な学習を工夫している。

## 算 数

算数科の目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すことである。

**東京書籍**は、数直線と線分図がともに掲載されていることにより、系統立てて指導しやすい構成である。また、1年生はA4版書き込み方式であり、児童が使用するノートと同じ大きさのマス目を使用するなど工夫されている。単元末にある「つないでいこう 算数の目」では、身に付けさせたい数学的な見方・考え方に焦点を当てて振り返り、深められる。巻末の「おもしろもんだいにチャレンジ」は、習熟度にかかわらず、全ての児童が興味をもてる内容である。

**大日本図書**は、全学年合冊のため、各学校のカリキュラムに応じて、既習事項をすぐに確認できる。1年から3年の教科書に「おうちでさんすう」では、学習した事を地域や家庭で生かすように促している。補助教材が切り取れ、巻末シートにメモして、別の問題で活用できるよう配慮されている。5、6年の内容にプログラミング教育への対応として、同じソフトウェアを使い、正多角形や比例のグラフをかく活動が示され児童が興味をもてる内容である。

**学校図書**は、「算数で見つけない考え方モンスター」としてキャラクター化することで、児童が親しみながら、見方・考え方を働かせることができる内容となっている。児童が苦手とする「割合」の単元について、「全体とその部分の比べ方」と「2つの量の比べ方」を2つの単元に分けて構成されている。大きさがA4版であるため、絵や図等が大きく掲載されており見やすい。また、学年末にこれまで学んだことを活用するページと自己評価表が掲載されている。

**教育出版**は、児童が多様な考えをもてるような構成になっており、特に円の面積を求める問題では、図が実寸大の大きさで取り上げられている。また、単元のまとめでは、学んだことのよさを振り返る4コマ漫画を設け、単元等を貫く数学的な見方・考え方を児童が理解しやすいように工夫されている。児童の問いを軸に学習を進める構成のため、児童の疑問から学習のめあてをつくり、主体的・対話的な学びを通して問いを深め、新たな問いへとつなげられる。

**啓林館**は、全単元にQRコードが付いており、タブレット等でデジタルコンテンツを利用して理解を深められる内容となっている。「面積」の学習では、三角形の面積をもとにすればすべての面積を求められることを重視している。教

科書の年間配當時数は、標準時数よりもゆとりのある時数のため、児童の実態や理解度に応じて、柔軟に指導時間を調整することができる構成となっている。巻末には、透明の分度器など、数学的活動で活用できる教材がある。

**日本文教出版**は、新しい単元に入る前に、これからの学習する内容のもとになる既習事項を確認する「次の学習のために」が設けられた構成となっている。1年で繰り上がりのある加法と繰り下がりのある減法は連続しないように構成するなど、他学年でも学習の混乱を避けるような単元配列になっている。「算数マイトライ」では、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の3つのコーナーで構成され児童の実態に応じた対応ができる。

## 理科

理科の目標は、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することである。

**東京書籍**は、児童の発想を大切にした課題作りができる単元構成となっている。観察・実験器具の扱い方が、巻末にまとめられているため、児童が活用しやすい。学習内容と関連した日常生活の場面や、環境問題を発展として取り上げる「理科のひろば」は、発展学習ができる内容である。問題解決的な学習では、安全面への配慮がなされるとともに、話し合い活動を重視している。

**大日本図書**は、各学年で育てる問題解決の力を、各単元で示している。理科の考え方を踏まえた観察・実験のタイトルが示されている。問題解決の学習過程を重視し、ノートのとめ方は、見開きで扱っている。コンピュータ活用で、情報モラルについて強調している。学年の巻末に「学習のまとめ」「問題練習」があり、児童だけでも学べる家庭学習への配慮が見られる。

**学校図書**は、問題解決の学習の流れが、全学年、学習の流れ、実験で必要なものなど、問題解決の学習活動のどこを学習しているのかを示すチェックボックスがある。巻末だけでなく単元中にもノート例が例示されている。地震が起きた時の避難行動など、災害についての学習内容に工夫が見られる。「わかったこと」の後に、読み物の資料を掲載し、キャリア教育を意識した内容である。

**教育出版**は、問題解決の中の結果の見通しを大切にしている。「お茶の水博士」の学習アドバイスや、教師の発問、板書例、教師キャラクターを通して、児童は考えを整理することができる。生き物図鑑、星座早見、気象ミニ図鑑、環境ミニ図鑑が巻末にあるので個人で活用でき、家庭学習でも役立てられる。話し合いの仕方については話型中心であり、学年で大切にすることを示している。

**啓林館**は、単元最後の「まとめノート」が、図と言葉で整理されている。「活用しよう」「つなげよう」の内容が、児童にも教師にも役に立つ知識である。また、学習を生活につなげようとしている点に工夫が見られる。「ものづくり広場」を巻末にまとめている。「自由研究」ではプログラミングを扱っている。全学年で、前後の学年で扱う栽培植物を「理科の季節ごよみ」で紹介している。



## 生活

生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていく資質・能力を育成することである。

**東京書籍**は、写真の提示によって、児童に学習の見通しをもたせ、知的好奇心を高められる。また、植物の成長の様子を、経過の比較ができるよう、観察カードの書き方を大きくするなど、資料に工夫がみられる。巻末の「ポケットずかん」や「べんりてちょう」は、児童の学習に対する関心を広げるものである。文字表記やイラストの色使いが、ユニバーサルデザインに配慮されている。

**大日本図書**は、特設コーナーにおいて、言語活動を充実させることにより、生活科の学びを深めようとしている。また、提示資料は、児童が実際に作成した新聞や地図等を使用し、学習の見通しをもたせる資料となっている。単元導入のページは、単元全体の活動の流れを理解させることを意図した構成となっている。生活科の入門期としては、文字が全体的に小さいページがある。

**学校図書**は、下巻の植物栽培の単元では、栽培方法の提示を含め、数種類の野菜の栽培を取り上げて提示したり、「ものしりノート」で活動例を具体的に提示したりするなど、児童の活動に対する興味・関心を引き出そうとする工夫がある。提示資料は、全体的に絵の使用量が多い。使用されている写真の児童が自然な笑顔で写っていて、児童に親近感を抱かせるものになっている。

**教育出版**は、ページ端の「ひんと」コラムでは、感じる、比べる等、学習活動の進め方が提示されており、児童が対象に対する見方や考え方を身に付けたり、それらを深めたりするものとなっている。資料として写真や絵が豊富に使用されており、学習内容を視覚的に理解しやすい。児童が多様な人々との関わりに気付くことができるような写真が掲載されている。

**光村図書**は、種や球根、野菜の写真は実物大で示される等、写真資料は、児童の興味・関心を高め、活動意欲を引き出すものとなっているが、全体的に絵が多く、絵本のような印象を受ける。また、友達との対話場面を多く設定し、吹き出しにより発問を示すことにより、身近な生活と関連付けて考えるよう工夫されている。

**啓林館**は、ページごとに学習のねらいが児童に明確に示されるとともに、ページ右端のめくり言葉が活動や思考のつながりをもたせている。活動の流れも一貫しており、児童が見通しをもって学習活動に取り組むことができる。学習の際、児童が参考にできる資料が多く提示されている。QRコンテンツが掲載され、学習に必要な動画や音声再生できる。

**日本文教出版**は、見開きの左下部分に、学習指導要領で示された児童に身に付けさせたい資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてが示され、児童の学習への意識を高める工夫がある。植物の成長の様子について、経過を比較してみることができるよう、写真の配列やページ構成の工夫がある。吹き出しのつぶやきによって、児童が思考しやすい内容となっている。

## 音 楽

音楽科の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することである。

**教育出版**は、題材が「鑑賞」と「表現」を関連付けて構成されている。題材名はおおくりで示しサブタイトルで学習のねらいを明確にしている。例えば、ミュージカルを扱う単元では、関連する曲を鑑賞した後に演奏の学習につながるなど、曲順が工夫されており、ねらいが捉えやすい構成になっている。楽器を紹介する写真等の資料が多く、効果的に編集されているので理解しやすい。

**教育芸術社**は、児童が主体的に学べるように、学習の見通しをもったり、振り返ったりできる工夫がされている。題材名がねらいを意識した表現となっているため、児童が音楽の学習でどのような力を身に付けるか、学習のめあてをつかみやすい。雅楽や和楽器の写真・演奏法等について、郷土の音楽を学べる内容になっている。

## 図画工作

図画工作の目標は、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すことである。

**開隆堂出版**は、学習のめあて・活動内容・振り返りの文言がわかりやすく、児童が主体的に活動できる内容になっている。児童が興味・関心を高められるような題材が多く、また、ページごとの作例に統一感があり、表現活動のイメージがもちやすい。鑑賞のページの画像が大きく、細部まで鑑賞することができる。また、児童の制作過程が多く掲載されているので、活動の見通しをもちやすい。

**日本文教出版**は、鑑賞と造形活動を組み合わせた題材が充実していて、制作活動とともに鑑賞活動が展開できる。単元に対する様々な作例が掲載されており、造形遊びが多く取り上げられ、地域性も考えた活動方法が提案されている。作例写真に多様性があり、児童が様々なアプローチから題材に取り組める内容構成になっている。また、完成された作品の写真数も多く、鮮やかで見やすい。

## 家庭

家庭科の目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指すことである。

**東京書籍**は、題材を「課題発見」「課題解決・実践活動」「評価、改善」の3ステップで示し、問題解決的な学習につなげている。題材ごとに「家庭科の見方・考え方」が示されていて、生活を見つめる視点をもちやすい。ミシンの使い方が、安全面への配慮も記載されるなど、定着が図られる内容である。全体を通して、持続可能な開発目標（SDGs）の視点が示されている。

**開隆堂出版**は、題材を「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3ステップで展開できるようになっており、問題解決的な学習展開に効果的である。巻末の「ことばのページ」では、家庭科の用語を英単語でも示しており英語学習との関連が図れる。生活時間についての振り返りでは、具体的な場面が示されており、自分の生活と比較することができる構成になっている。

## 保健

体育科の目標は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことである。

**東京書籍**は、各章における学習活動で学習するねらい、流れ、目標が明確に示されているため、問題解決の過程がとらえやすく、児童が主体的に学習を進められる。また、他教科の単元との関係性が明示されていて、教科横断的に考えを深めることができる。挿絵、図、写真が調べ学習に適している。

**大日本図書**は、各章の導入に学習ゲームが設定されており、学習ゲームをとおして、学習する内容をつかむことができる。また、「話し合ってみよう」が掲載されており、児童が対話的な学習に取り組めるような工夫がされている。薬物乱用防止の学習では、課題別学習をすることができる。

**文教社**は、各章では学習段階が大きくまとめられており、「新しい自分にレベルアップ」では、学習後の成長を想起させることができる。豆知識や発展的な内容が掲載されており、学習した内容を深められるように工夫されている。また、児童の目線で助言が記載されている。

**光文書院**は、章のとびらで、学習内容を4コマ漫画で表現し、児童の興味・関心を高められるようになっている。学習内容に関するキーワードが記されており、児童が調べ学習を進められる工夫がある。全体の色使いが、淡色系で構成されていて見やすい。発展的内容を取り扱っているなど、情報量が多い。

**学研教育みらい**は、各章では、つかむ・調べる・深めるの3段階に構成されていて、児童が病気のメカニズムなどについての学習を主体的に進められるように工夫されている。また、ページ下部に豆知識や発展的な内容が掲載されており、理解を深められるようになっている。

## 外国語

外国語科の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することである。

**東京書籍**は、今年度まで使用していた副読本に使われている表現や語彙が似ているため移行しやすい。5年のテーマが「自分」「地域」「日本」など、他教科との関連が図られ、身近な出来事と結び付けて学習が進められる。別冊の絵辞書が添付されており、児童が活用できる。

**開隆堂出版**は、他教科との関連を明確に示しているため、教科横断的な学習が展開できる。聞く、話す、書く技能が高められるようバランスよく配置されている。自分の学習が見通せるように、「できるようになったこと」が「CAN-DOマップ」で示されている。

**学校図書**は、音声教材が充実しているため、繰り返し音声による定着を図ることができる。書く活動で、発達段階に応じて文字を大きくするなど工夫されている。巻末のカードは、表記されている文字や写真等がやや小さいものもあるが、内容は充実しており児童が教材を使って主体的に学習できる。

**三省堂**は、活動がパターン化されているため、学習を重ねることで、児童が見通しを持ちやすい。また、外国語の経験が少ない担任でも指導しやすい構成である。導入教材の量が適切であり、児童の負担感は少なく、ステップで基礎基本を繰り返すので、定着が図られる。

**教育出版**は、イメージを持ちやすいイラストや、文字を書く欄の色付けなどが工夫されているため、ユニバーサルデザインの面からどの児童にとっても使いやすい内容である。切り取り式のワークシートが添付されているので、評価等に活用することができる。

**光村図書**は、文字遊びや歌など、児童が、言語に興味・関心をもてるような工夫が示されている。くり返し書くことができるペンマップシートにより、文字を書く活動で習熟を図れる。12か国の子どもとあいさつが紹介され、世界の国の文化等に触れることができる。

**啓林館**は、ペアワークやアクティビティに工夫があり、対話的な学習が進められるような内容になっている。児童のアクティビティや単元の振り返りが充実しており、児童が興味をもって取り組める。文字を書く内容が充実していることが特徴である。



## 特別の教科 道徳

道徳科の目標は、道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることである。

**東京書籍**は、道徳の時間の過ごし方について書かれており、学習のオリエンテーション等への活用に効果的である。題名の前に「見出し」があることで、児童にとって見通しがもちやすい反面、児童の考えが広がりにくいことも考えられる。第一学年では教材に長いものがあり、指導上の工夫が必要である。

**学校図書**は、内容項目に関係するコラムが詳しく紹介されており、児童の興味関心を引き出すことに効果的である。別冊の資料活用により、学習展開や指導内容に統一を図ることができる一方、教師の発問が限定されてしまうことが考えられるので、指導上の工夫が必要である。

**教育出版**は、「いじめ」「命」など、大きなテーマとなる内容項目が明確にユニット教材として掲載されている。モラルスキルトレーニングなど、「やってみよう」の体験的な学習が入っているが、体験活動が主になってしまうことも考えられるので指導上の工夫が必要である。

**光村図書**は、始まりのページを活用することで、児童が学習の見通しをもちやすく、また、巻末には、各学年の目ざした姿の記載があり、保護者にもわかりやすい構成となっている。教材の挿絵や写真は美しく、児童の興味を引くことができるが、文章の叙述がやや詳しく、指導上の工夫が必要である。

**日本文教出版**は、題名の前後に、「見出し」「導入の発問例」「あらすじ」があり、児童にとって考えるきっかけがもちやすい構成となっている。道徳ノートが別冊にしており、ノートに書く分量も適度であるが、ノートへの記入により、教師の発問が限定されることも考えられるので、指導上の工夫が必要である。

**光文書院**は、挿絵や写真などに工夫があり、児童が興味・関心を高めやすい構成となっている。道徳ノートの書き方の例示など、児童が表現するヒントを提示していることは分かりやすいが、児童の思考が制限されてしまう場合もあるので、指導上の工夫が必要である。

**学研教育みらい**は、文京区に関連のある資料、ノンフィクション、タイムリーな話題の教材が入っており、児童の興味・関心を引き出すことに効果的である。各教材は、題名と教材名のための構成となっているため、児童に見通しを持たせるためには、指導上の工夫が必要である。

**廣済堂あかつき**は、漫画での資料提示、補助資料の提示等により、児童が興味・関心を高める工夫がされ効果的である。別冊の「道徳ノート」は、道徳的価値の理解を確かなものになっているが、児童の思考が制限されてしまう場合もあるので指導上の工夫が必要である。